

けるイヌホタルイの種子生産. 日本雑草学会第32回講演要旨 186-187.

小山豊 1993b. 水田多年生雑草コウキヤガラの塊茎形成経過. 雑草研究 38, 190-196.

小山豊 1993c. 水田多年生雑草コウキヤガラの塊茎形成に及ぼす環境要因の影響. 雑草研究 38, 197-204.

工藤聡彦 1987. 【図解】水田多年生雑草の生態 シズイ. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 81-86.

草雄得一・服部金次郎 1973. 冬期間の耕起法及び水管理の差異がクログワイ塊茎の生存・出芽に及ぼす影響. 雑草学会第12回講演会要旨, 41-43.

草雄得一 1984. ウリカワの生態と防除. 雑草研究 29, 11-24.

野田健児 1972. ウリカワの生態と防除—主として生長と増殖. 雑草研究 14, 19-23.

大隈光義 1987a. 【図解】水田多年生雑草の生態 セリ. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 45-50.

大隈光義 1987b. 【図解】水田多年生雑草の生態 キシュウスズメノヒエ. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 87-92.

佐竹治男・桑野正信 1969. 暖地におけるウリカワの生態と防除に関する2,3の知見. 雑草研究 9, 25-29.

下島久雄 1967. 水田雑草マツパイの防除に関する生理生態学的研究. 滋賀県農業試験場特別報告 1-48.

竹川正和 1987. 【図解】水田多年生雑草の生態 ヒルムシロ. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 57-62.

植木邦和・中村安夫 1969. 多年生雑草クログワイの防除に関する基礎的研究 第1報 繁殖の生理生態学的特性について. 雑草研究 8, 50-52.

渡辺寛明 1987. 【図解】水田多年生雑草の生態 ホタルイ類. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 7-12.

渡辺寛明ら 1991. 水田土壌におけるイヌホタルイ種子の生存状態と発生. 雑草研究

36, 362-371.

山岸淳・橋爪厚 1971. 水田多年生雑草防除に関する研究 第IV報 マツパイに対する稲刈り後処理除草剤の除草効果の変動要因について. 千葉農試研報 11, 133-137.

山岸淳・橋爪厚 1974. 水田多年生雑草の防除に関する研究 第VI報 ウリカワの生態とその防除について. 千葉農試研報 14, 125-134.

山岸淳・武市義男 1978. 水田多年生雑草防除に関する研究 第VIII報 クログワイの生理生態的特性について. 千葉農試研報 19, 191-217.

山岸淳・武市義男 1980. 水田多年生雑草防除に関する研究 第IX報 クログワイの耕種操作による防除法. 千葉農試研報 21, 109-117.

山岸厚 1987. 【図解】水田多年生雑草の生態 ミズガヤツリ. デュボンジャパンリミテッド農業事業部, 25-32.

田畑の草種

現の証拠 (ゲンノショウコ)

フウロソウ科フウロソウ属の多年草。全国の山野、道端、畦畔、土手などに普通に見られる。背丈は30～60cm。茎は地面を這いよく分枝する。夏から秋にかけて茎先や葉腋から花柄を伸ばし、紅色あるいは白色の花を2つ付ける。花色は、富士川付近を境に、東日本では白色系の花が多く、西日本では紅色系の花が多く分布している。

日本在来種で、センブリ、ドクダミとともに、日本の3大民間薬とされる。本種は煎じて服用すると下痢などの症状がたちまち改善されることから「現(験)に効くのが証拠である」ということで名づけられたとされる。

古人たちもその効能を知り、利用していたと思われる。実際、長野県の縄文中期の堅穴式住居の遺跡からセンブリの種子が出土している。センブリより分布域が広く、雑草性も高いゲンノショウコである。使われていないはずがない。

ゲンノショウコは真夏の土用の丑の日に採取するのがいいとされる。縄文人たちも、夏の暑い最中、1.5cmほどの淡紅色の花を求めて、住居の周りを探していたかもしれない。そうして集めたゲンノショウコを束にして紐で結わえ、住居の中の梁にぶら下げて乾燥させた。乾かしたゲンノショウコを、食事の

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

後とか体調が優れないときに、茎の1本や葉の数枚を折ったり揉んだりして、そこへお湯を注いだり容器で煮出したりしてお茶のように飲んでいたのではなからうか。

平安時代には漢方の知識も加わり、「和名類聚抄」では「牛扁」(和名タチマチグサ)と記載され、牛の病気を治す薬草としても利用された。

江戸時代中期になると貝原益軒は全16巻の「大和本草」の中でゲンノショウコをこう記した。

「葉茎花をすべて陰干しにし粉末にしてからお湯で飲む。腹下しに良く効く。赤痢に最も可である。また、煎じてもあるいは粉末にして丸薬にしても皆効果がある。本草(第6巻, 薬類)にはこの効能を載せなかった。本草では毒草類(第9巻, 雑草類)に載せた。然れども毒はない。(しかし)一度植えると盛んに繁殖し除くのは困難になる」

貝原益軒は本種を記載するのに民間薬として定評がありながらも本来の巻である第6巻の薬類ではなく第9巻の雑草類に記載した。しかもわざわざ「毒はない」と断って。

本草としての民間薬より、防除の難しい雑草性の方がより問題であったようである。